

2023年8月1日

各 位

株式会社 山口フィナンシャルグループ
株式会社 YMFG ZONE プラニング

環境省「地域循環共生圏づくりプラットフォーム構築業務」における ICTを活用したESDモデル構築に向けた取り組みについて

山口フィナンシャルグループ（代表取締役社長CEO 椋梨 敬介）の子会社であるYMFG ZONE プラニング（代表取締役 蔵重 嘉伸）は、持続可能な地域づくりに向けた取り組みとして、ICTを活用したESD（※）モデルの構築を山口県周防大島町において実施することを以下のとおりお知らせいたします。

本取り組みでは、文部科学省・環境省が策定する「第二期ESD国内実施計画」の5つの優先行動分野における「学習環境の変革」、「教育者の能力構築」、「地域レベルでの活動の促進」の達成に向けて、他地域でも実現可能なESDモデルを構築することで、次世代の担い手育成と持続可能な地域づくりを目指します。

なお、環境省「環境で地域を元気にする地域循環共生圏づくりプラットフォーム構築業務」は、活動団体としてYMFG ZONE プラニングが地域金融グループとして唯一2年連続の採択を受けております。

※ESD (Education for Sustainable Development) …持続可能な開発のための教育

1. 取組背景

環境省ではSDGs達成に向けた持続可能な循環共生型の社会づくりとして、地域循環共生圏（ローカルSDGs）の形成を進めており、各地域で地域循環共生圏の形成に向けたプラットフォームの構築を進めています。

同省の選定を受け、令和4年度は産官学金の多様な関係者との意見交換を実施し、山口県立周防大島高等学校の「島じゅうキャンパス」の取り組みを地域で支援する持続可能な仕組みづくりや高校生のアイデアを活用したエコツアーの推進について検討を行いました。今後は、生徒のアイデアの更なる活用に向けて地域の関係者と高校生が密に連携出来る仕組みづくりが求められます。



意見交換会の様子

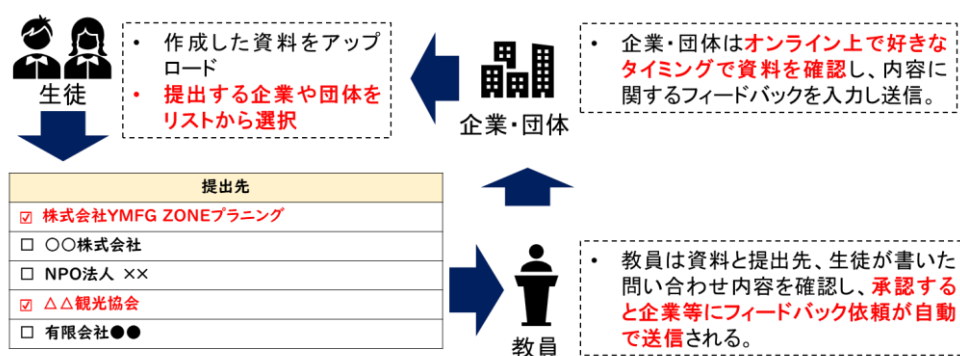


高校生の発案によるエコツアーの
コンテンツ（クリアカヤック）

2. 取組内容

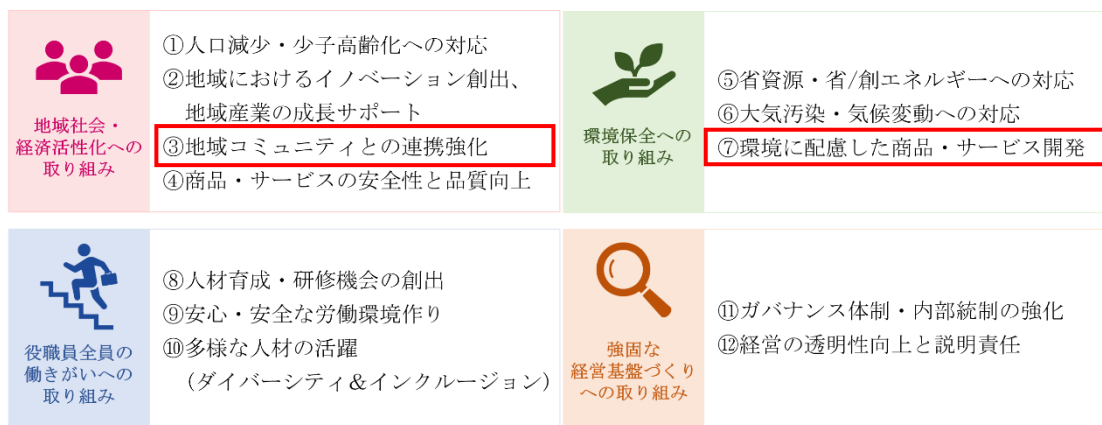
令和5年度の事業では、ICTを活用して地域の多様な関係者と山口県立周防大島高等学校の高校生をつなぎ、高校生のアイデアをオンラインでブラッシュアップ出来る環境を整えます。

本取り組みでは、生徒がオンライン上にアイデアをアップロードし地域の関係者から随時フィードバックを受けることが可能となり、高校生と地域の関係者が密に連携して地域で実現可能なアイデアを持続的に創出する仕組みを構築することで次世代の担い手育成と持続可能な地域づくりを目指します。



3. 山口フィナンシャルグループのマテリアリティ

山口フィナンシャルグループは、持続可能な社会の実現に貢献していくために、「グループサステナビリティ方針」を策定し、この方針に基づき、重点的に取り組むべきESG課題である「マテリアリティ」を特定しております。本件は、12のマテリアリティの中で「③地域コミュニティとの連携強化」、「⑦環境に配慮した商品・サービス開発」の実現に資する取り組みです。



以 上

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社 YMFG ZONEプランニング 河野・古谷

TEL : 083-223-4202

活動テーマ：地元高校と連携したESDモデルの構築及び地域課題解決と連動したエコツーリズムの推進

■ 実施地域（山口県 周防大島町）の現状

【基本情報】

- 山口県南東部の瀬戸内海に位置し、全域が瀬戸内海国立公園指定される等、美しい景色や自然に恵まれている。
- 人口は14,798人、高齢化率は54.6%（令和2年10月1日時点）となり、人口減少・少子高齢化が顕著に進む地域。産業は農業及び水産業が主要な産業。



(出所：町提供資料より)

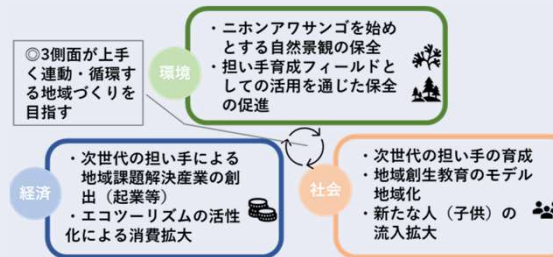
【地域資源】

- 瀬戸内海国立公園では初となる「海域公園地区（町南東沖の海域）」に指定されている国内最大規模のニホンアワサンゴの群生地（約3,000㎡）
- 自然保全に向けたエコツーリズム等に取り組む多様な団体
- 地域創生を学ぶ学科を有する地元県立高校

■ 取組を通じて目指すありたい姿

- 当海域に群生するニホンアワサンゴをはじめとした、豊かな自然の活用を通じた保全を進めるとともに、地域の子どもたちをこの取組に参画させ、**町をフィールドとした地域課題解決を通じて次世代の担い手育成を地域と連携し進める。**

- 自然環境の保全、**新たな地域課題解決の事業創出と連動しながら地域の担い手が育ち、地域の資源が循環していく地域作りを目指す**とともに、地域創生教育モデルとしての構築を進めていく。



■ 令和4年度の実施内容

◎ 高校と連携したESDモデルの構築

- 周防大島高校と連携し、YM-ZOPの作成した地域循環共生圏の形成に係る学習ツールを活用して**地域課題解決のアプローチ手法を学習するとともに、地域の多様な団体や関係者と連携してエコツーリズムの活用や自らが考える課題に対する解決方法（エコシステム）を協働して検討。**
- 提案した「しまキャン△」については、内閣府「**地方創生☆政策アイデアコンテスト**」の全国大会へ出場し、**4つの企業協賛賞を受賞**（NEC賞、True Data賞、損保ジャパン賞、観光予報プラットフォーム賞）。



生徒の考案したアイデア

◎ 地域プラットフォームの構築

- 周防大島高校の取組を応援することが、地域の事業者の方々にも裨益することを、産業間取引構造や地域経済循環をもとに丁寧に説明行い、**全3回の意見交換会を通じて20以上の企業や団体に地域プラットフォームへ参画頂いた。**



地域循環共生圏づくりプラットフォーム構築業務 概要(山口県 周防大島町)

■ 令和5年度の取組内容

◎ ICTを活用したESDモデル構築

- 環境、経済、社会の統合的な課題解決を目指す事業のタネを高校生が生み出すには地域循環共生圏を理解することが必要だが、**教員の異動や生徒の卒業によりノウハウが教育現場に残りづらい点が課題**。また、令和4年度は生徒の発表会にステークホルダーが参加し意見交換を行うことで事業のタネの磨き上げを実施したが、意見交換会のタイミングだけでは磨き上げの回数も限られることから、**地域の関係者の負担を低減するとともに、即時性がある磨き上げの仕組みづくりを行うことが必要**。
- 令和5年度の取組では、生徒のアイデアをオンライン上にアップロードし、プラットフォームに参画している地域の関係者がオンライン上でタイムリーにフィードバックを行う環境を整備する。本取組は、文部科学省・環境省が策定する「**第2期ESD国内実施計画**」の5つの優先分野における「**学習環境の変革**」、「**教育者の能力構築**」、「**地域レベルでの活動の促進**」の達成に資する取組であり、他地域でも実現可能なESDモデルを構築することで、次世代の担い手育成と持続可能な地域づくりを目指す。



ICT活用した新たなESDモデルのイメージ



オンラインによるフィードバックの流れ



出所：文部科学省・環境省「第2期ESD国内実施計画」

◎ 「事業のタネ」の事業化に向けた仕組みづくり

- 生徒が提案した事業のタネの事業化に向けて、**ICTを活用し地域の関係者が事業化支援を行う**。
- 【今年度実施が決定している内容】
- NPO法人がシュノーケリングでニホンアワサンゴを見学するツアーをクリアカヤックを活用した内容で商用化。
- 周防大島高校が関わった地域産品をリターン商品として購入型クラウドファンディングを組成し、テストマーケティングを実施。ニホンアワサンゴの保全及び事業化に向けた実証費用を資金調達。
- … etc



高校生の発案によるエコツアーのコンテンツ（クリアカヤック）



作製したアロハシャツ